



バリチャ、
バリチャ!

キター! 絶対アブナイ

有終の
T1だった
ハスガ……!



T1ならウエットだろーが スノーだろーが イタダキや

トライアルGT-R:「こんな路面やから、セッティングが難しいな。でも、ちょうど御乗りの足くらいがええねん。いつもより1000rpm早くシフトしてみただ。ま、アクセルコントロールが大変やっただけ、マキ足(セナ足に似た言葉)が200回くらい出てもたで/」とマッキー。1回目できるとこまでセッティングをつめて、2回目は慎重に……。いくかと思ったら、「もうバリチャ/」と全ラップ全周で収めまくっていた。

またもや牧ヤンにヤラれたー! ウエットはテレテレで もう頭の中がクラ倉クラソー



マインズGT-R:「いろいろセッティングを試みただけど、タイヤの温度が意外と上がらずグリップが上がらなかつたね。もう油の上を走っているみたい。T1も1年ぶりだったし、クラッチのコンディションもイマイチ。ドライでやりだかった。でもマッキーは運かった……」とニヤニヤクラソー。メカの軽部さんによると、アライメントはこのT1用にセッティングしてきたとのことだったが、やはり、この路面が影響したようだ。



なんとかは 無理無駄無茶ナシ ステディー なんです ワッハッハ FRで2位 ゲットで満足

ま、こんなもんで
そんなもんデス



レイブロス・スーブラ:「ダークホースのレイブロスのスーブラ。みんなトライアルとマインズの対決に注目だったからね。新波さん曰く「やっぱ、パワーオーバーだから特にアンダーで困ったってこともなく、コントロール性も良かった。スーブラには有利な条件だったね」とのこと。



アリ地獄のどっこいしょ

HKS関西サービス・ランエボ:「Wヘアピンがアンダーでしゃーないねん。足を柔らかめにセットしてなんとか走ったけどな……」とちよつとがっかり気味。実際、ウエットでこれだけ決まった4駆のマシンだから期待も大きかったんだけどね。付けたばかりの新しいデフのセッティングも出ていなかったそうだし、それで4位は立派!? でも、Wヘアピン手前で砂利地獄へ……。

ド・アンダーが消えない!

圭オフィス・シルビア:「ド・アンダー/ もう裏ストレートのあとはWヘアピンまで滑りつばなし。でも、ストリートショックでここまでやれば十分でしょ?」と現地人北原はなにやらイイワケがましいことをのたまっていた。やっぱこの路面はFRにはシンドイ。



読者代表デブなしで勝負!



こんな路面は
勉強になりますネ



ファーストinコースアウト のDaiには勝った!

ブリッツ・セリカGT-FOUR:「弱アンダーのマシンなんだけど、3周でタイヤは終わっちゃっし、コーナーでは入口オーバー、出口アンダーとめっちゃくちゃだったね。でも、楽しかった! Daiさんはコースアウトで勝負にならずでした」とブリッツ金子。



おい、ここやー/ 助けてー

ヤルことはやりました…… 残すは最高速で勝負です

ガレージ福井SPL・MR2:「パッドの交換、タイヤのエア圧やサイズ変更と忙しくやっていったガレージ福井。でも走ってみると、タイヤが温まってきた頃にブレーキがフェードと、手こずっていた。「もう、フロントが逃げちゃってダメ」と越前屋横山。



(特別参加) 川井クンS13シルビア: 大阪から来た読者の川井クン。マシンはS13のシルビアで、ライトチューンを施したマシンだ。今までにこのT1は10周回走っているというが、今回のようなハーフウエットは初めてとのこと。川井クンによると「ノンスリがないからコーナーでテールが出ると、まるでスローモーションでした。タービンも調子悪いし、なんせタイヤがタイヤですからね〜(RE810S)。でも、走り終わってから気付いたんですけど、レコードラインの部分はどこか乾いていたんですね……」とのことだった。

サーキット タイムアタック リザルト

順位	エントリー	ベストラップタイム
1位	トライアル	1分52秒291
2位	レイズ	1分55秒090
3位	マインズ	1分59秒259
4位	HKS関西	2分04秒406
5位	圭オフィス	2分06秒714
6位	川井クン	2分06秒954
7位	ブリッツ	2分07秒225
8位	ガレージ福井	2分10秒984
8位	Dai	——

※ブリッツとHKS関西は赤旗無視で周回したため、減点ポイントが課せられる。

最近、サーキット走行やサンデーレース流行りで、チューニングカーのテストもサーキットが多い。これだけ性能が上がれば当然のことだね。チューナーにしてもサーキット通いに精を出している。中でも、T1決戦と聞いて張り切っていたのは関西勢でT1の会員でもあるトライアル・マッキー牧原&レイブロスの新波社長。これに切り込むのがサーキットに強いマインズの新倉クンだ。

しかし、当日は路面がハーフウエットで、走り込みの差でマッキーに順位が上がった。ボクに言わせれば、あんな路面で全開する頭を疑っちゃうよ。ま、野性vs理性でマッキーの野性が勝ち、ジムカーナの仇をうったってところか。

カンガルーバンパーが付いたままのマシンがサーキットを走っているところこそミスマツチでオカシイ。でも、1周も計測ができなかったのはやっぱり曲がったものがキライなセイカクだからでしょう。コースインしてスグにコースアウトを2回も経験してしまうなんて……。まっボク稲田だからなせる技だね。



引っ張っても
出ないな……

Daiセリカ参考タイム: 未計測(1周もできず)

そのまもコースアウトのDai稲田

だったりで四苦八苦していたもんな。特に、半キャップで張り切っていた(よいこのみんなはマネしないよーに)越前屋横山はMRで泣きそうでした……。というわけで、今回のこのウエットコンディションでは、マシンのポテンシャルというより、チューナーがどれだけこのコースとコンディションに経験があったかということが、勝敗を左右する要素となった。